



# radio Camnetに続くマガジン版 雲心月性

大槻ワールドへようこそ

Camnet マガジンをお楽しみの皆様。マガジン版「雲心月性」です。いかがお過ごしですか？

大槻は 2021 年 3 月末まで在籍していました川崎医科大学の中の川崎医学会の運営委員長でデジタルサイネージに機関誌への投稿を促すスライドを月の前半 2 枚、後半 2 枚で流しています。Ms. Keiko C の描いたイラスト、Ms. Saori T の絵手紙と僕の写真です。2020 年の 7 月と 8 月のスライドを紹介します。



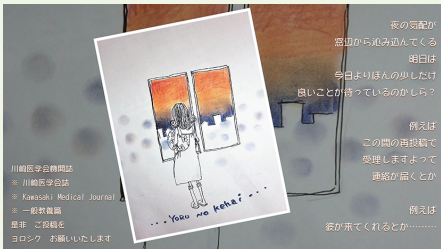
蓮の花は、寺院に大きな甕の中で咲いていますよね。大輪で鮮やかです。



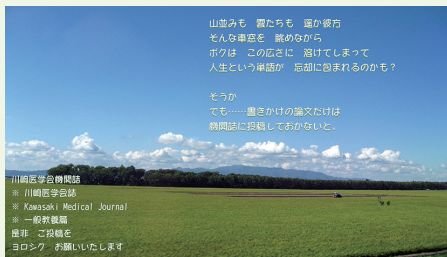
そして、夏空に届けてほしい絵手紙には「涼」が描かれています。



夏空の田舎の駅には幼い頃のわくわくと郷愁がいっぱい。



そして、夏の遅い夕暮れにふと寂寥を感じてしまうのは、どうしてでしょう？



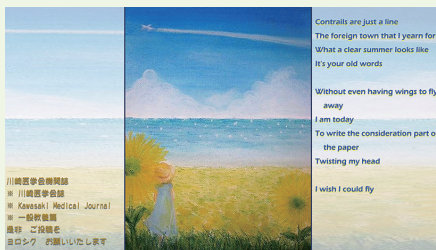
夏に北海道に行きました。広いひろい！！どこまでも続く地平です。



夏はくいとビールで、縁側で、蚊取り線香をともして・・・いいね！



夏の砂浜・・・白い、そこにふと蜻蛉が～秋も近い？



ひまわり畑には～夏の幻影が隠れています。どこかで、何かを忘れてきたように。

さて、オリジナル曲の歌詞紹介。

「二人どこへ」は、大槻の作詞作曲です。サブスクなどではリリースしていませんが……。

あつい日差し 逃れて  
陽気な風を 逃れて  
二人どこへ 二人どこへ  
始まりと終わりが にっこり握手した  
夏の空は 明るく  
まともに 見つめられない  
二人どこへ 二人どこへ

冷たすぎる 指先を 暖めあつてるように  
手と手を重ね合うの  
ここへおいで せめて今は

白い肌を 寄せ合い  
いいんだ 何も言わずに  
二人どこへ 二人どこへ  
笑ってた昨日が 突然泣き出した  
枯れた花も そのまま  
残しておこう 窓辺に  
二人どこへ 二人どこへ  
微笑みより 暖かい 日差しを閉ざした部屋で  
優しく抱いてあげる  
ここへおいで せめて今は

2 か月分のコラムですので、時事的な話題は避けてしまっていますが、COVID-19 のワクチン開始、新しい生活様式の中で、少しずつ生活が彩られて行っていればと祈念しています。

♪オリジナルCD  
プレゼントします！  
詳しくは  
プレゼントコーナーで

プロフィール 大槻 剛巳  
(おおつき たけみ)

新庄村国保診療所で内科医師として勤務  
0歳: 京都府福知山市にて生誕  
14歳: 京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位  
14歳: KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用  
15歳: 倉敷市にて転居  
15 & 18歳: NHKあなたのメロディー出演  
18歳: YAMAHAポプコン全国大会(譜面の部) 出場  
20歳: YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり  
24歳: 川崎医科大学卒業  
以降: 川崎医科大学血液内科～衛生学にて診療・研究・教育に従事  
1992-1996年: 米国留学(医学研究)  
1996年: 岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山山の文学」に掲載  
2009年: Camnet CH-F (10-19) パーソナリティ担当  
2021年3月、川崎医科大学衛生学教授を退官。現在に至る